

# 月刊 千葉労働運動



## ★大失業時代にたち

## 向う新たな春闘を!

# 三・八春闘総決起集会

### 新たな春闘を!

動労千葉は、三月八日、大失業攻撃にたち向う新たな春闘をつくりあげることをめざして、98春闘労働者総決起集会を呼びかけている。

昨年来の金融システム崩壊、大倒産をマスコミは「悪魔の連鎖の始まり」と報じている。資本主義体制は、手の施しようもない危機に直面し、一切の犠牲が労働者におしつけられようとしている。98春闘は、われわれがこれまで経験したことのないような歴史の大きな転換点のなかで闘われようとしている。今われわれに問われているのは、賃上げどころか、賃下げ・倒産・首切り、一切の権利の剥奪が問題となるような時代のなかで、この状況に向って果敢に闘いを展開し、なおかつ労働者の団結を守りぬき、怒りを結集して日々団結の輪を広げ、現在の体制そのものに挑みかかっていくような新たな労働運動のあり方を創りあげていくことだ。98春闘は、このような新たな闘いへの第一歩を踏み出すという意味で非常に重要な闘いとなる。大失業と戦争の時代における「春闘元年」をわれわれ自身の

手によって創りだそう!

### 体制側の危機感

「諸君!」という月刊誌の二月号の特集記事は、「国難来る! 大恐慌か大戦争か」というタイトルを掲げ、「デフレ克服には戦争以外対抗手段がないというの、歴史が示す恐ろしい現実です」「日本はもう一度、満州事変的な構想やビジョンを持つ必要がある」「もはや最悪の事態を覚悟すべし」等、あからさまに「戦争しかない」という主張で満たされている。この雑誌は、自民党や新進党のお先棒を担ってきたような評論家などが原稿を寄せる保守体制派の月刊誌だ。また日経連が毎年、資本家側の春闘方針として一月にだす「労働問題研究委員会報告」のタイトルも、今年はずバリ「危機からの脱出」である。

われわれは、この体制側の危機感の深さを真正面から見すえなければならぬ。こうした時代への対抗勢力となれるのは労働運動だけだ。

### 九八春闘ストを

何ひとつ要求が通らないどころか、動労千葉や国労の組合員

であるというだけで徹底した差別を受ける状況のなかで、あくまでも解雇撤回を求めて闘いつづけ、なおかつ団結を守りぬいてきたわれわれの10年間に及ぶ闘争は、こうした時代のなかでこれまでにも増して重要な意味をもつものとなっている。このような闘いをやりぬくことが全ての労働者に問われるようになってきているのだ。だからこそわれわれは、今こそ全ての労働者の先頭にたつて闘いぬかなければならない。国鉄闘争のあり方を全労働者の闘いに普遍化しなければならぬ。また、一〇四七名の解雇撤回闘争を中心とした国鉄闘争自身も、今年最大の正念場を迎えている。

#### 春闘労働者総決起集会

● 3月8日(日) 正午

● 労働スクエア東京

(東京八丁堀)

● 呼びかけ 動労千葉

● 大失業攻撃にたち

向う新たな春闘を!

# 春闘ストと結合し、配転者・予科生を原職に!

98春闘と結合して、強制配転・士職登用差別粉砕に向けた闘いを全力で強化しよう。われわれは、ストライキを含むあらゆる手段を尽くして、JRとJR東労組の結託体制を打ち破り、何としても、強制配転された仲間たち、士職登用を拒否され続けている仲間たちを職場に奪い返すために、組織をあげた闘いを展開する決意だ。

腹の底から怒りが沸きあがるようなこの十数年間に及ぶJRの卑劣な差別・不当労働行為の全てを職場から根絶しよう。その手先はJR東労組も断じて許すことはできない!

昨年末から開始した署名運動には、組合所属を問わず、国労も鉄産労もJR東労組も、運転関係の職場のほとんどの仲間たちが応じてくれた。運転士であれば、会社と東労組が手を結んでやっている何ひとつ理由のない差別がどれほど卑劣なことなのかは誰でも判ることだ。

十数年JRと東労組の結託体制は、安全も、技術継承も、列車運行能力も、何もかもかたぐり捨てて動労千葉や国労潰しを一切に優先させるところまで堕ちた異常な会社組織を生み出した。もうこれ以上こんな状態を許しておくことはできない。

98春闘と強制配転粉砕闘争と清算事業団一〇四七名の解雇撤回闘争、そして反合・運転保安闘争を結合して、三月に向けてJR体制を揺るがす闘いをつくりあげよう。

★ 強制配転者を原職に戻せ!  
★ 予科生を士職登用せよ!